

福井市郷土自然科学博物館の発展によせて

香室 昭 円

近年における科学技術の著しい進歩に伴う産業構造の変革は、一面に都市化を急速に前進せしめるとともに、他面、われわれをとりまく自然環境を著しく変貌させている。現在、われわれは、自然と社会のめまぐるしい変遷のなかで、人間性回復のため、自然的な生活への郷愁とも相まって、失われようとする自然の保存と改造への、極めて重大な課題の前に立たされている。

ひるがえって、われわれの福井市郷土自然科学博物館の発展に目を転ずるとき、自然環境に恵まれた足羽山の一角に誕生して以来、長年にわたり、県内の極めて広い範囲にわたって、着実に蒐集整理された標本は、小規模ながら、県民にとっても、誇りとすることができる実に立派なものであると考える。展示されている標本のなかには、単に郷土資料としてのみでなく、わが国における生物学あるいは地質学の発展のために、極めて重要な価値を持つものも非常に多いのである。

このような貴重な自然資料は、足羽山景観の変遷にもにて、単に歴史的な素材としてのみではなく、現代に価値あるものとして、また、それらが、単に学校教育あるいは極めて限定された社会教育上の対象としてのみならず、現代のわれわれの生活とも密接に関係する生きたものとして、今後新しい観点におかれねばならないであろう。

そして、これらのことに関しては、われわれ県民一人一人が、自分たちのみのまわりの自然保護に向かって、積極的に働きかける態度を基盤として、郷土博物館を市からさらに県民のためのものへと発展させることを極めて重要な課題とするのである。

それらとともに、博物館が今後具体的には、県内の生物および地質資料を現在の時点でさらに徹底的に蒐集すること、県外等との標本交換を通じて、資料をさらに豊富にすること、あるいは、定期研修活動の回数をふやすとともに、従来の学校対象をさらに市民のための開放講座等にまでひろげるなど、今後の発展のために計画的な展望のもとで活動することが大切であろう。

これらの活動を実現するためには、博物館所員、教師あるいは県民の努力が必要であることはいうまでもないが、現在の時点では、それにも増してまずは、博物館の建物および研究園の拡張、所員の増加および維持費の大巾な増額等について、関係諸機関で緊急に検討されることを希望するものである。

筆者は、変貌しつつあると思われる足羽山が、今後とも市民あるいは県民のよき緑地帯であり、そのなかにあって、郷土の自然保存あるいは保護のための極めて重要な研究施設として、今後とも

博物館がますます発展することを心からねがうものである。

福井大学教育学部教授 理博